



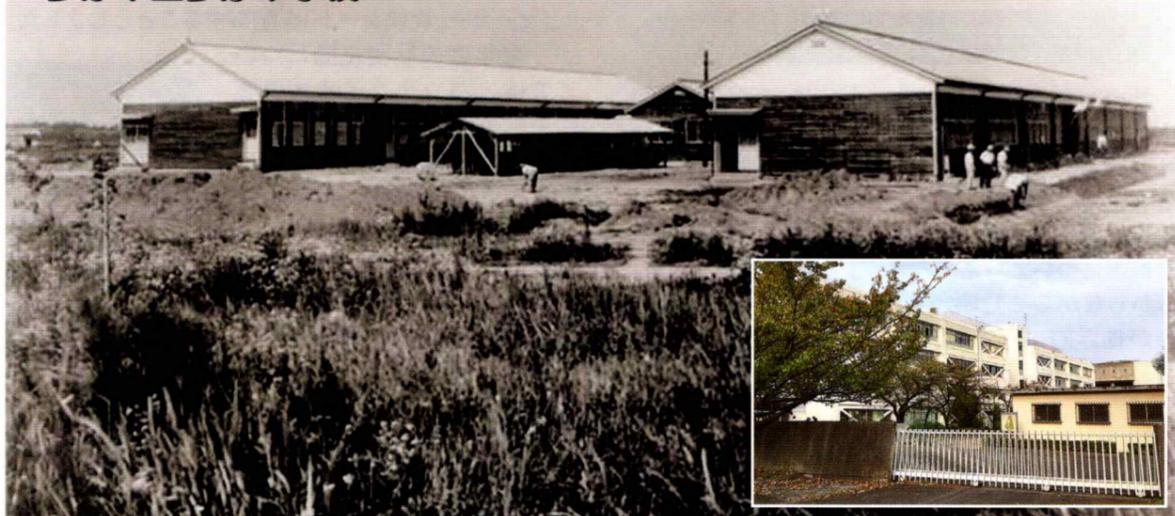
日野
多摩
稲城

地区保護司会だより

第62号

学校今昔

多摩市立多摩中学校



—— 着任の御挨拶 ——

東京保護観察所立川支部長 藤井 淑子



4月1日付けで、東京保護観察所立川支部長に転任して参りました。平成24年度に続き、二度目の立川支部勤務となります。各地区保護司会の総会でお目にかかれると思っておりましたのに、このような形で御挨拶申し上げますことになり、大変申し訳なく思っております。微力ではありますが、精一杯取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大により、昨今の今頃には全く思いもよらなかった生活を送ることになりました。

面接に始まり面接に終わると言われる保護観察処遇も、緊急事態宣言下においては、面接を行うことがままならなくなりました。緊急事態宣言解除後、必要性を勘案しつつ面接を再開していますが、感染状況は緊急事態宣言下よりも悪化したため、感染予防に最大限配慮しながら、何とか保護観察を実施している状況にあります。このような中で、保護観察対象者の生活状況を把握し、適切に指導ができるのか不安を感じていましたが、

ほとんどの保護観察対象者がきちんと保護司の方々に連絡してきていることを知り、胸をなで下ろしました。これは、ひとえに、保護観察対象者としてしっかりした信頼関係を築いてきてくださった保護司の方々のおかげです。本当に感謝申し上げます。

保護司会活動においては、ブロック別保護司組織運営連絡協議会はリモートで行うことが見込まれるなど、新しい取り組みが始まっています。Withコロナといわれる生活がしばらく続くことが見込まれる中で更生保護活動を続けていくためには、更生保護においても、「新しい日常」ならぬ「新しい更生保護」を模索していく必要があると思っています。

保護観察処遇にしても、保護司会活動にしても、これまで通りにはできない中で、更生保護にとって重要なことは何かということを変更して考えさせられています。一つ一つの事柄について、その時々々の感染状況に応じて考えなければならないため、「新しい更生保護」を確立するまでは、御迷惑をおかけすることもあろうかと思われませんが、引き続きの御協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、感染状況がなかなか改善しませんので、御自身の健康にはくれぐれも御留意していただきますようお願い申し上げます。

- 1 -

第70回 “社会を明るくする運動”



活動報告

日野分区

社会を明るくする運動は本年度で70回目を迎え、節目の年となりました。当初日野分区では社明運動の活動として市内3か所程度での街頭広報活動、昨年に引き続き市内8中学校の2年生を対象とした出前授業「犯罪や非行防止と更生保護について考えてみよう」を行う予定でした。しかしながら2月頃から新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大し、拡大防止のため保護司会

活動や社明運動の準備活動等を自粛せざるを得なくなりました。

このため分区役員で相談をし、接触型の運動を避け、できる範囲内で行える策として①市役所庁舎に懸垂幕を掲出する、②市ホームページに社明運動について掲載していただく、③市内小中学校にポスターとのぼり旗を掲出していただくことと授業予定であった中学校2年生全員に広報用品(マーカー、爽快シート)を配布することとしました。

来年度の社明運動については、コロナウイルスの感染拡大状況にもよりますが、従来通りの活動ができればと考えています。日野市とも相談し、接触型でなくともどのような運動ができるかどうかについても考えていく必要があると思われま



多摩分区

今年70回目という節目の年でしたが、新型コロナウイルス感染予防の為に自粛要請があり、啓発活動を縮小せざるを得ませんでした。多摩分区では、懸垂幕と横断幕の7月1日から1ヶ月間の掲出、市の庁用車を利用した広報、中学校への作文依頼に絞り込みました。

写真のように、新調の懸垂幕を市役所に掲出しました。ホゴちゃんが目立ち市民にアピールできました。横断幕は、聖蹟桜ヶ丘・永山・多摩センターの3駅周辺で昨年同様に掲出しました。7月7日には、多摩市職員の協力を得て庁用車による3駅周辺での広報活動を行いました。

昨年は、中学2年生へ出前授業を行いました

が、今年中学校長会にて、2年生への啓発グッズ配布と、社明作文応募に向け多摩分区保護司が作成した「更生保護について」のDVDを使用した授業実施をお願いしました。数校で授業が実施され、410作品という作文応募がありました。今までの積み重ねが実を結びつつあると実感しました。

一方、地域諸団体の皆様には例年街頭啓発活動へ参加協力を得ていましたが、中止となりましたことが残念でなりません。来年こそはと考えています。



稲城分区

稲城市では中学校に対して例年5月、連休明けの校長会で「社会を明るくする運動」の協力依頼をお願いし、6月から推進委員会を開催して広報活動の準備に入っています。しかし今年新型コロナウイルス感染症により、6月に遅れて開催した校長会で、7月1日に実施している「駅頭及び街頭での広報活動」(JR3駅、私鉄3駅、バス停の7ヶ所)は実施しないことを報告しました。しかし、「社会を明るくする運動」作文コンテストへの応募については協力依頼を行いました。

例年、ティッシュの中に入れていた折鶴を中学生、小学生に協力して折ってもらっていましたがそれも中止となりましたので協力してもらっ

ている中学生、一部の小学生には社明のグッズのクリアファイル、ティッシュ、リーフレットを渡して「社会を明るくする運動」の意義について考えてもらうことにしました。

又、真夏の7月に実施しているジャイアンツ球場での広報活動、夏祭り・盆踊り期間中の広報活動も残念ながら中止としました。

夏休み明けの9月、社明の作文コンテストに1校から49人の応募があったとの連絡を受け、優秀作品の選考を中学校担当者に依頼しました。



中学校(6校)、小学校(2校)に配付したグッズ

3市職員との意見交換会（報告）

令和2年8月19日(水)にサポートセンター百草台の会議室において3市職員との意見交換会が開催されました。コロナ禍の中、令和2年度定期総会が書面決議で行われ、地域別定例研修や多くの会議などが中止され、社明運動も街頭PR活動が自粛されましたが、外部の方々との交流会議の開催は本年度初めてのことでした。3密・換気・消毒などに配慮しながら無事開催することができました。

立川支部からは新支部長と統括観察官、3市からは担当部長・課長・係長など11名、地区保護司会からは会長・3副会長・総務部長・センター長・会書記が出席しました。本年度は、4月1日付で立川支部長の異動や多摩市の担当部署の所管が健康福祉部福祉総務課になる等があり、初めての顔合わせでした。

ネット検索ができます。

- *再犯防止推進計画加速化プラン（令和元年12月閣議決定）
- *中野区における再犯防止推進計画の策定について → 「中野区再犯防止推進計画」（令和2年5月）
- *豊島区再犯防止推進計画（素案）にかかるパブリックコメント → 「豊島区再犯防止推進計画」（令和2年1月）

本年度の最大の関心事(協議目的)は「再犯防止推進計画」の各市の取り組みの進捗状況でした。

最初に藤井立川支部長から「中野区の再犯防止推進計画」「豊島区の再犯防止推進計画」をはじめ全国の取り組み状況の説明があり、また「再犯防止推進計画加速化プラン」の資料提供をいただきました。

3市では前年度に引き続いて話し合いが進められ、今年度中には3市足並みを揃えて取り組むべき共通の理念や枠組みを決めて、令和3年度には各市単独の「再犯防止推進計画」を策定する計画とのことです。そのためには、関係機関との連携が必要であり、保護司会とのヒアリングも実施したい旨の協力要請がありました。今後、各市と各分区とのヒアリングが行われる段階になっていきます。（総務部）

令和2年度 第6ブロック保護司組織運営連絡協議会（報告）

令和2年10月16日(金)に、第6ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催されました。本年は、西多摩地区が当番となり、コロナ禍の影響から主催者や4地区の協議員が一堂に会することはせず、各地区のパソコンを使用したリモート会議形式で実施されました。

本年の協議議題は、「開かれた保護司組織」。各地区は、事前に意見書を当番地区に送信しました。3回のトライアルを行い協議会当日には、パソコン画面に各地区の質問者が映し出され協議会が始まりました。主催者の挨拶は事前に配布された「資料集」の書面とし、各地区の意見書について質疑応答が行われました。主催者の講評をいただいた後、次年度当番地区の挨拶をもって終了しました。

当地区では、サポートセンター百草台会議室に協議員全員が集まり、質問者に選任された土方日

野分区長、青木多摩分区長、鹿島稲城分区長が、各々八王子地区、町田地区、西多摩地区に質問をすると共に当地区への質問に回答しました。また、その他の協議員はテレビ画面でリモート会議を視聴し、協議会に参加しました。



<当地区協議員>

- | | | |
|------------|-------|-------|
| ・日野分区…土方三男 | 松本ちづ子 | 川久保和壽 |
| 出沼恵美子 | 伊野直美 | |
| ・多摩分区…青木智子 | 持田幸子 | 佐倉英明 |
| 高木禎信 | 遠藤明子 | |
| ・稲城分区…粟井洋子 | 川島保之 | 鹿島正二 |
| 高木伸二 | 唐木洋子 | |
- （総務部）

コロナ禍における保護司会活動

サポートセンター長 松本 ちづ子

新型コロナウイルス感染防止による活動自粛要請を受けたサポートセンターの閉館は、3月4日から6月14日の3ヶ月以上にもおよびました。この間、保護司会活動は大きく制約を受け、定期総会が書面決議となり、分区や専門部の活動も中止を余儀なくされました。

このような状況下で、毎月発行の「サポートセンター百草台だより」は、各分区を通じて配信しました。また、サポートセンターの報告業務もテレワークが認められ、月例活動日誌など各種書類の提出が円滑にできました。郵便物や宅配便も、受け取り場所を変更し処理しました。改めてサポ-

トセンターの活動拠点としての重要性や、緊急時対策の必要性を痛感しました。

今も来館者には、入館時の検温と手指消毒、事務機器や机・椅子の除菌など、感染防止への協力をお願いしています。一方、多くの保護司は対象者面接を電話で実施しています。しかし対面での面接が必要な時は、「面接前チェックシート」による体調確認をし、面接時間の短縮や屋外で会うなどの措置を行っています。

コロナ禍はまだまだ続きそうです。皆で知恵を出し合い、乗り越えていきたいと思います。

新任のご挨拶 ご活躍を期待します 令和2年9月1日委嘱



日野分区 なかむら まこと 中村 真琴 (広報部)

コロナ禍に於いて研修も受けられず、実感も知識もないまま「保護司になっての挨拶文を」とお話をいただきました。この場をお借りしまして自己紹介をもって挨拶文とさせていただきます。

私は宮城県の石巻市出身で、震災で身内や友人、実家を失くしました。その経験から昨今は自主防災活動の手伝いをしています。絵を描く本好きで、独身時代は建築パースや、美容院のポスターを描くのが仕事でした。今は家庭の状況を見ながらできる仕事を少しずつこなしています。

子どもが4人（社会人から小学生まで）おりまして、震災後は義母も同居し大家族です。そんな中で、家族全員が少しずつ成長しているのを実感します。家族間でも譲り合いや思いやりが垣間見られ、逆に意見のくい違いがあってもお互いの着地点を探っている様子も勉強になります。

以前「人間は、人との出会いによってしか変わらない」という言葉を聞きました。どちらが引き寄せた運にせよ、お互いがお互いにとってプラスの変化の手助けになれば幸いです。まずは最小単位の家族から！

これから益々出会いを増やし、小さくても良い方向へお互いが変化し、成長していければと思っています。

表紙写真の説明 — 学校今昔 —

〈昭和27年落成の木造新築校舎〉

多摩中は、昭和22年4月1日戦後の学制の改革による6・3制の義務教育制度が新設されたことに伴い多摩村立多摩中学校として誕生。当初は多摩第一小学校内に設置された。

中学校新築については昭和24年頃から議論が高まり、昭和26年2月第1回対策協議会を経て、多摩中学校建設準備委員会が結成された。敷地の選定に苦心しながら、同年5月に多摩中学校建築委員会の設立となり、工事計画を進めることとなった。しかし補助金、起債が思うようにならず、やむなく工事を2期に分け、ようやく昭和27年7月新校舎落成の運びとなった。平成29年11月に創立70周年を迎えている。（写真提供：多摩市教育委員会）



多摩分区 ならさき よしこ 檜崎 喜子 (研修部)

私は、20年近く地域の子供達にボランティアで柔道を教えています。その中で沢山の子供達を見てきました。小学生から高校生、まだ一人では答えを出すのが難しい年齢。

「学校・親・友達・進学」様々な悩みを子供達は抱えていました。しかし、身近にいる親へは相談できない、話したくない、と言う子も多かったです。そんな子供達ですが練習の合間などに指導者である私には気軽に話しかけてくれました。立場的に話しやすい大人だったのかもかもしれません。正直、適切なアドバイスが出来ていたかは解りません。ただ話を聞いてあげる言葉を返してあげる、そんな時間が彼等にとっては大切な事だと思っています。

世の中には、悩みを抱えている子供が沢山います。そんな子供達の為に何か出来ないかと思い保護司になりました。自分は立派な人間ではないですが、ただ話を聞いてあげる事は出来ます。少しでも子供達の気持ちが楽になり笑顔が見られればと思います。

自分が保護司になりしっかりと仕事が出来るか解りません、不安でいっぱいですが明るい未来の為に頑張っていきたいと思っています。

編集後記

広報第62号をお届けしました。今号は、久しぶりに広報部員がサポートセンターに集まり、皆様からお寄せいただいた原稿を基に編集にあたることができました。

マスクの着用、入口での手指の消毒、フィジカルディスタンス（身体的距離の確保）としてテーブルに1人の座席など、新型コロナウイルスの感染防止に配慮したものでしたが、顔を合わせた作業は楽しくもあり活発なものとなりました。

来年の今頃は、11月号で中心となる「社会を明るくする運動」や各分区の活動報告がいつものように充実した内容であることを願うところです。

末尾になりましたが、発行にご協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

■サポートセンター百草台

〒191-0033 日野市百草999番地
電話 042-593-0950 FAX 042-506-5474
メールアドレス：vpcocentormog@true.ocn.ne.jp